# 第4回三木市小中一貫教育推進協議会 次第

日時 令和4年10月19日（水）
午後7時から
場所 三木市役所5階大会議室

1 開会

2 議事
（1）子どもにつけたい力

（2）集約する学校数

（3）吉川地域の学校の在り方

3 まとめ

4 閉会

資料1

小中一貫教育推進協議会リポート

# ふれあい

No.3 （R4.8）
小中一貫教育推進協議会
三木市教育委員会

８月２５日（木）、加東市立東条学園小中学校を訪問し、学校施設の見学の後、学校生活の様子について校長先生に説明していただきました。

その後、三木市役所に戻り、第３回小中一貫教育推進協議会を開催し意見交換を行いました。

## 1 施設一体型の学校における小中一貫教育について

**《第1，2回協議会における疑問点について、校長先生から説明を受けました》**

【授業】
・3，4年生は一部、5，6年生は完全教科担任制、外国語は中学の英語教師が担当
・6年担任の1人は（中学社会免許所有）国語・社会のみ、もう1人（昨年まで中学校数学教師、小学校免許所有）は算数のみ授業を受け持っている。教材研究等の時間確保につながる。

【学年の区切り 4－3－2制】
・「6年生の活躍の場が無くなる」という意見が保護者からあったがリーダーとなる機会が、6－3制に比べ1．5倍（4、7、9年）になる。4年生がしっかりする。
・いわゆる中1ギャップの6－7年生間の段差を、4－5年生間に2年早め、対応する制度

【行事】
・儀式的行事については、1年生が入学式、6年生が前期課程修了式、7年生が後期課程進級式、9年生が卒業式を挙行する。
・6年生は広島へ校外活動、9年生は沖縄（鹿児島）を修学旅行で訪れ、平和について学びを深め、6－9年生で交流（発表）し、つながりのある教育を実施

【制服・部活動】
・5年生から制服を着用する。男女区別なく、2種類（上がブレザー、下がズボンかスカート）のどちらから選んでも良い。
・保護者と相談し、今年の夏から5，6年生が部活動に参加している。今後、週に2回程度の参加となる。

【コミュニティ・スクール】
・学校経営方針の中に①通学路の見える化（注意喚起ののぼり旗設置等）や②地域での児童生徒の作品展示機会の増加の2つを挙げ、実現に向けて取り組んでいる。

【PTA 活動】
・開校を機に組織改編を実施した。学校運営協議会を上位機関とし、役割分担

【意識調査の結果】
8、9年生に「1，2ステージ（1～4年、5～7年生）の手本になりたいか」と聞いたところ・・・
「非常に！」が8年：75.7%、9年生：87．1%（肯定的評価合計は、それぞれ97%と98%）
⇒ 頑張って「良い手本となりたい」という意識は非常に高まっている。

## 《視察時の質疑応答　抜粋》

Q1　施設一体型の学校への再編前に保護者が不安に思われていたことは何か。
　　統合後の現在はどのような状況か。

A1　「同じ校舎に中学生がいて恐いのではないか」「昇降口で小中学生がぶつかるなどの心配があるのでは」といった不安が寄せられていた。

⇒昔は、地域で上級生下級生でグループをつくり、困ったことがあればグループ内で助け合っていた（他のグループから守る等）が、その感覚に近い。

⇒1年生と9年生がペアで掃除をしているところがある。ほうきで掃く9年生の後ろを1年生が雑巾がけしたり、寝転がってしまう1年生を9年生が声を掛け、励ましたりする姿が見られる。

・学校生活がスタートすると保護者の不安もなくなり、小中一貫教育を好意的に捉えていただいている。

Q2　4年生に対し、どのようにしてリーダーシップを育むのか。

A2　運動会の開会式は1－9年まで合同で行うが、その後は1－4年生のみが小グランドに残り、運営を4年生が担う。その他の行事でも意図的に4年生に任せる。

Q3　1－9年生が同じ施設を使うが、トイレ等の施設は、どのようなサイズなのか。

A3　階段の段差については小学生に合わせている。トイレその他の施設設備については、各階ごとに学年の発達段階に合わせた造りとしている。

## 2　第3回協議会　意見交換「今後の三木市の小中一貫校の方向性について」

### 《三木市全体をどう構想していくか、どのような校区割りとするかなど》

・小中一貫教育を各中学校区で推進しているので、新しい単位（校区）にし直して進めるというのは難しい。視察時に出た通学の課題もあるので、6校区を単位として進めていくのが現実的であると考える。

⇒かつてはもう少し異なる区切りで考えていた。中学校区単位であれば地域との結びつきもある。意見によっては三木市をもう一度割りなおすというのもある。

・1つの小学校から2つの中学校に進学する学校の課題がある。
・現段階の離れていても進めていく小中一貫教育のソフト面の内容の充実が大切
・実践推進校指定を受け、地域では「どこに施設ができる？」ということが話題になる。施設一体型の新しい校舎には説得力があり、未来を担う子どもを育てていくぞという気になる。
・小・中学校の教職員が共に子どもの育ちを支えていく視点が大切である。

・小中合同の活動について、保護者に伝えたのは、行事を一緒にすることが目的でなく、その前後で子ども・そして教員同士の交流が大切なこと。その取組の感想を子どもたちから保護者に伝えてほしいと思っている。
・現在の校区となれば、単学級でクラス替えがない。中学校区での実施は現実的だが、単学級は現場では苦しい。そこが何とかなってほしい。

⇒保護者の不安をなくすのは、意を尽くして議論し、それをしっかり説明することである。
⇒数（学校数）は独り歩きするので、中身をしっかり話し合い、意見書にまとめる。

# 小中一貫教育
# 施設の紹介

加東市立東条学園小中学校の視察より

## 《多目的スペース》

教室のとなりや廊下の端など、各所に「ゆったりとした空間」を設けています。

学級や学年を越えて子どもが集い、発表会や集会、グループ学習、自習スペース、情報交流など様々な用途に応じて、学びや発想が広がります。

## 《図書室》

小中の子どもが集い、本や資料に触れ、個別・グループ様々な学びが生まれてきます。

採光や窓から見える景色にも配慮し、子どもたちがいつでも「行きたいな！」と思える場所になっています。

## 《ランチルーム》

「学年のみんなで」「小中の垣根を越えて」給食を食べながら交流できる空間です。

小さなホールや会議場としてのほか、地域交流スペースとしての活用も可能です。

※コロナ禍の今は使用に制限がありますが、多くの新規施設で採用されている施設です。

## 《体育館》

学校規模によっては、大・小２つの体育館や運動場が必要です。※単学級の学校については、１つずつの場合が多いです。

外部からの入り口や施錠方法を工夫することで、地域の社会体育等で、より有効活用することができます。

## 《その他の小中一貫教育（9年間の学び）に配慮した施設》

階段ごとに色分けし、どこにある
階段かを分かりやすくしています。

手洗い場は、発達に合わせ、
階により高さを変えています。

小・中で2人の養護教諭が
保健室で温かく見守ります。

つながりのにわ（中庭）では小・中
学生が集い、多くの目で見守ります。

水が汚れにくく、外から見えにくい
屋上設置の大・小プールです。

1中2小の歴史を展示する
メモリアル展示スペースです。

### 3 第3回協議会　意見交換「施設見学を通しての感想」

- ロ（ろ）の字型の校舎配置は行き止まりが無く、どこかにたどり着き、誰かに出会い、声を掛け合える。
- 教職員間の共通理解のためには、職員室が1つであることが大切だと感じた。
- 予算のことがあるが、ぜひ、施設一体型の学校設置に舵を切ってほしい。
- 「想像以上や！」と子どもが言ったそうだが、想像以上に細かな工夫がしてある。
- 学校建設に至るまでの準備がしっかり整えられ、建物、教育理念には工夫が込められている。これを参考に三木市でもっと良いものを目指してほしい。
- うらやましい。三木も頑張ってほしい。ただ、何もかもが完璧で、考えなくても自動的に使える感じがしたので、思考力や個性を育てる工夫がいる。
- 図書館や体育館が社会教育で使えるなど、市民サービスや社会教育施設としての機能を入れ、子どもと市民の教育施設になると良い。
- 鍵の管理も地域に任せると良い。大人が学んでいるところを見る機会をつくり、地域の大人と小中学生、教員がつながり、地域ぐるみで９年間見守っていく。

### 校舎に関するキーポイント

1　**1つの職員室**で、教職員の協力体制づくり
2　小学生と中学生が一緒に生活すると、
　小学生は**あこがれ**の気持ちを持ち
　中学生は**良き手本**になろうとする

加東市教育委員会より

### お問い合わせ

三木市教育委員会学校再編室
電話　0794-89-2400

・ホームページも
　ご覧ください。

ホームページURL
https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/61/4046.html
又は、「三木市　学校再編」で検索

※　第４回協議会は、10月19日を予定しています。

資料2

# 子どもにつけたい力

（第 2、3回協議会より）

| | つけたい力 | 意見交換内容 |
|---|---|---|
| 1 | 主体性、思考力 | タブレットで正解はすぐ手に入るが、自分で吟味して身に付けてほしい。 |
| 2 | 優しさや思いやり | 不易と流行があるが、2040 年の未来像は、変わってはいけないことが抜けている。優しさや思いやりを大切にしたい。 |
| 3 | 伝える力(コミュニケーション力) | 実際に発する言葉で、しっかり伝える力(コミュニケーション力)を身に付けてほしい。 |
| 4 | 実体験から感じとる心（力） | 本物に触れ感動してほしい。調べ、ページをめくり、覚え、そして実物に出会い、精神の豊かさを失わないでほしい。 |
| 5 | たくましさ、生き抜く力 | 未来像に驚いたが、子どもたちはその中で生きていかねばならない。 |
| 6 | 困難さから立ち直る力 | ①相手を傷つけない方法を学んでほしい。<br>②傷つくことを避けてばかりいれば、傷ついた時の対応ができなくなるので、傷つかないことよりも傷ついた後の対応をどのようにできるか、子ども同士あるいは大人に助けを求める等、根源的な力が子ども達に必要である。 |
| 7 | 思考力、判断力<br>取捨選択する力 | 大人がいらないということではなくて、有象無象にある知識や情報をどのように取捨選択して大人たちは意思決定していくのか、自分の考えを作っているのかという部分では絶対に人生経験というのが必要である。これこそ大人の役割である。今後の学校教育・家庭教育において重要なのは大人がそういったことをどう考えているのか、思考力・判断力というものがこれまで以上に求められてくると思う。 |